

実施内容	消化管造影検査におけるイオパミドール注の適応外使用
承認者	東海大学医学部附属八王子病院 病院長
承認日・期間	2026 年 7 月 30 日 ～経口造影剤が安定供給されるまで
対象者	消化管造影や術後で造影剤検査が必要な患者
目的・概要	従来消化管造影検査に使用していたアミドトリゾ酸ナトリウムメグルミン液（商品名：ガストログラフィン）の限定出荷に伴う供給遅延に対し、代替造影剤としてイオパミドール(商品名：イオパミロン等)を使用します。 イオパミドールは日本国内において、血管内投与による造影検査の適応で使用されておりますが、消化管造影の適応を有しておらず、本製剤の使用は適応外使用に該当します。一方で、米国 FDA では腹部・骨盤部 CT における経口造影剤としての使用が承認されており、国際的に広く使用経験のある造影剤となります。 そのほか、米国放射線学会(ACR)のガイドラインには、血管内投与が承認されているヨード造影剤は、消化管または尿路への投与においても安全に使用できるとの記載もあります。本製剤は非イオン性造影剤であり、従来使用されていた高浸透圧性イオン性造影剤(アミドトリゾ酸ナトリウムメグルミン液等)と比較して、消化管粘膜への刺激が少なく、誤嚥時の肺合併症のリスクも低いとの報告もあります。 診療科： 救命救急科、消化器外科、小児外科、消化器内科、画像診断科、 小児科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科 使用方法： 消化管造影検査（X 線 TV、CT）時に、経口または注腸する。 原液または必要に応じて希釈し投与する。
予想される 不利益と対策	●消化器症状：悪心、嘔吐、下痢、腹痛、口内不快感が生じる可能性があります。 ●過敏反応：ヨード造影剤に対するアレルギー反応(発疹、蕁麻疹、呼吸困難等)が稀に起こる可能性があります。消化管投与では、造影剤の全身吸収は限定的(1-2%)ですが、腸管粘膜に炎症や閉塞がある場合は吸収が増加する可能性があります。 ●誤嚥時の合併症：誤嚥した場合、肺水腫や化学性肺炎を考える可能性があります。なお、低浸透圧性造影剤（本剤）は、高浸透圧性造影剤と比較してこのリスクは低いとされています。 ●甲状腺機能への影響:ヨード造影剤投与後、一時的に甲状腺機能検査値が変動する可能性があります。 対策： ・過去にヨード造影剤でアレルギー反応を起こした方、喘息やアレルギー疾患のある方は事前にお申し出ください。 ・検査中および検査後は医療スタッフが患者様の状態を観察し、副作用が生じた場合は早急に適切な措置を行います。 ・緊急時の訓練を受けた医療スタッフを常に配置しています。
問い合わせ先	〒192-0032 東京都八王子市石川町 1838 東海大学医学部附属八王子病院 医療安全対策部 医療安全対策課 電話番号：0570-000-802 FAX:042-639-1112 または主治医まで直接ご連絡ください。